

Smart Times

渡沢栄一が執筆した「論語と組織」という書がある。渡沢と言えば、日本の近代経済社会の基礎を築き、実業界のみならず社会公共事業、民間外交の面においても指導的役割を果たした人

物だ。150年近く前に書かれたものだが、経営者および経営者を志す者の必読書としてお薦めしたい。その中に、重役にしてはいけない人についての記述がある。「会社の取締役や監査役といった名前が欲しい

インディゴブルー会長

柴田 励司



1985年上智大文卒。マーサージャパン社長、カルチニア・コンビニエンス・クラブの最高執行責任者(COO)などを経て、2010年インディゴブルー社長、15年から会長。

重役にしてはいけない人

人「一学ばない人」「周囲の人を大切に

競争があるから「名前が欲しい」に害があると思っ。いい人だが能力がない人なれないが、社外取締役に、社長にとっては信頼できる人だが個人としては本人が「腐書コレクター」であり、会社側が高名な方々の名前を借りたりするケースがあるように思っ。社外取締役の最も重要な仕事は、やもするとバイアスがかかりがちな社長に対する重頭さん

「いい人だが、社外取締役には、社長にとっては信頼できる人だが個人としては本人が「腐書コレクター」であり、会社側が高名な方々の名前を借りたりするケースがあるように思っ。社外取締役の最も重要な仕事は、やもするとバイアスがかかりがちな社長に対する重頭さん

「いい人だが、社外取締役には、社長にとっては信頼できる人だが個人としては本人が「腐書コレクター」であり、会社側が高名な方々の名前を借りたりするケースがあるように思っ。社外取締役の最も重要な仕事は、やもするとバイアスがかかりがちな社長に対する重頭さん